

荒川ふるさと文化館だより

荒川区教育委員会
荒川ふるさと文化館
荒川区南千住6-63-1
TEL03(3807)9234
登録(07)0058号-02

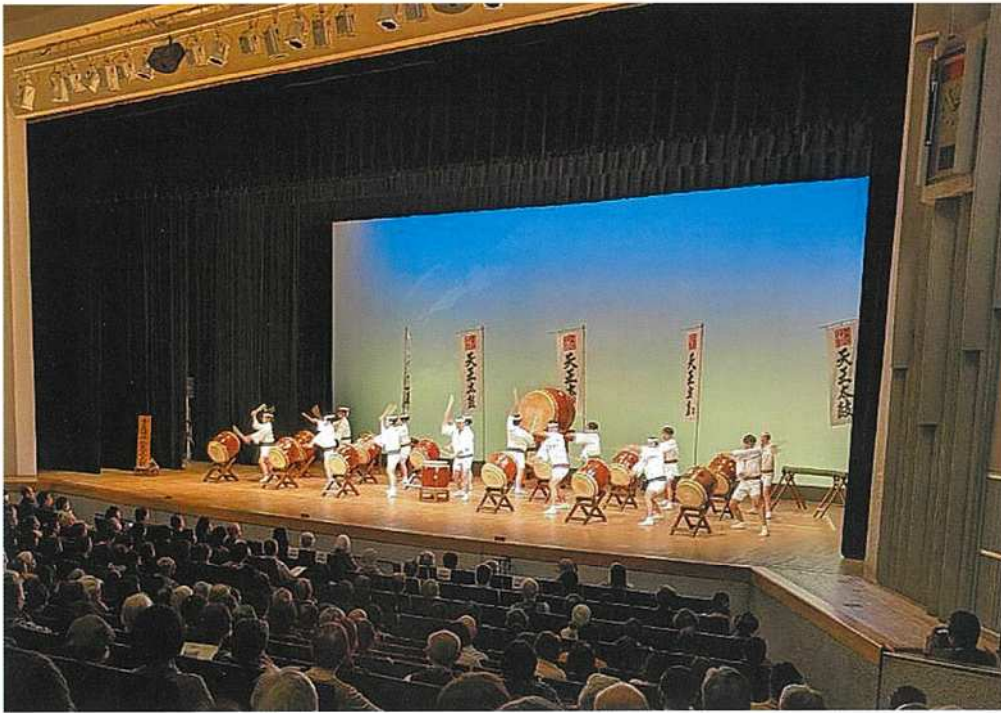


写真3 素盞雄神社天王太鼓会の演奏

東京都民俗芸能大会 in ARAKAWA & ~江戸の里神楽のワークショップ~

松本社中の江戸の里神楽は、5月に根岸の元三島神社、8月に西日暮里の諏方神社の神楽殿で見ることが出来ます。お近くにお越しの際は、ぜひご覧ください。



写真2 松本社中「熊襲征伐」



写真4 寿獅子舞の練習

東京都民俗芸能大会 3月29日、サンパール荒川において江戸東京芸能祭の取りの催し東京都民俗芸能大会が開催されました(写真1)。都内の民俗芸能を公開し、無形民俗文化財への関心を高め、継承育成することを目的とし、今年で57回目を迎えた歴史ある大会です。江戸東京のわらいをテーマに都内の6つの芸能が上演されました。開催地の荒川区から国指定無形民俗文化財・江戸の里神楽の松本社中(写真2)と区登録無形民俗文化財・素盞雄神社天王祭において太鼓の演奏をしている素盞雄神社天王太鼓会(写真3)が出演しました。それぞれ熱演に次ぐ熱演が繰り広げられ満席の会場を大いに沸かせていました。

ワークショップ「寿獅子舞体験」また、大会にともない江戸の里神楽のワークショップも開かれました。松本社中の指導のもと一般公募の参加者は熱心に獅子舞の練習をし(写真4)、その成果は大会の開演前に発表されました。ここに、区立第六日暮里小学校的の児童も参加していました。同校は松本社中の地元にある小学校です。令和5年から伝統文化委員会へ社中の方々が教えています。昨年8月24日、諏方神社祭礼の際、神楽殿で獅子舞の演技を披露しています。今年2月24日にも地域や保護者のみなさんの前で発表されました。

民俗芸能を見に行こう 素盞雄神社天王太鼓会は、毎年6月上旬の天王祭で、



写真1 大会ポスター

収蔵庫のイッピン! 15

― 猪苗代水力発電を追って ―

鉄塔のある風景 右の写真は、旧第五瑞光小学校から移管された資料のうちの一点である。手前の川には大きい舟が一艘、小舟が二艘浮かぶ。白い帽子と黒い腹掛けを身に着けた男性たち二十五人程度が、舟の上で立ちあがりカメラに向けてポーズをとっている。撮影者は舟か対岸から撮影していると考えられる。川の向こう対岸には鉄塔が六基、等間隔に連なっており、その先には白い箱型の建物が建



写真1 古写真「苗代 隅田川 南千住」



写真2 絵葉書「田端変電所 高圧室」

つている。左には植生の合間に農家の住まいだろうか、茅葺屋根の建物が数軒見える。高い建物はなく、農村の田園と鉄塔だけが点々と広がっている。撮影場所は「苗代 隅田川」「南千住」と記されている。「苗代」とはおそらく「猪苗代水力発電」の略称、「隅田川」は写真の川と考えられる。隅田川から猪苗代水力発電の鉄塔が並び立つ場所となると、尾久が候補に挙がる。その場合、「南千住」が問題となるが、撮影場所ではなく舟に乗船する人々の居所を表すのかもしれない。

京駅を設計した辰野金吾。建物手前には、何も生えていない田んぼが広がっている。よく見ると、稲刈り後に稲穂を干す穂掛けが描かれていて、稲は無いの

で、時期は稲刈・脱穀も終了した冬と考えられる。

大正時代に入ると、尾久には二つの変電所が設置された。一つは鬼怒川水力発電、もう一つが猪苗代水力発電である。猪苗代水力発電は、福島県の稲苗代湖北西にある猪苗代第一発電所から、東京の北豊島郡尾久村字上尾久二〇〇七、二〇一五（現荒川区東尾久五丁目周辺）の田端変電所まで二百数十キロの区間を電気供給した。この電気は、尾久周辺の工場だけでなく、都電の前身である王子電気軌道にも使用された。会社は猪苗代水力電気株式会社といい、田端変電所の竣工は大正三年（一九一四）一月のことであった。この写真では、右端に大正十年創業の佐々木鉛筆工場が無いことから大正三、十年頃までに撮影されたと考えられる。

また同じように見える鉄塔の形も、電力会社や導入時期によって特長がある。鬼怒川水力発電の鉄塔は、バンザイ鉄塔と呼ばれ、上空に両腕を振り上げたような形だ。一方の猪苗代線の鉄塔は、懸垂鉄塔と呼ばれる形で、福島県には大正時代初めに導入した米国製の鉄塔が現存している。写真1の鉄塔は福島に残る鉄塔とよく似ていることから猪苗代線と考えられ、現足立区の小台側から荒川区の尾久側の田端変電所方向へ撮影したと考えられる。現在の尾久では、猪苗代水力電気株式会社の後継にあたる東京電力パワーグリッド(株)田端変電所の鉄塔が川縁から縦断する光景が今でも残っている。この写真は農村から工場地帯になる前の尾久の様子を伝えるイッピンといえるだろう。

〈高柳吟音〉

古写真の中の歴史世界⑨ 八雲神社と幻の神輿庫



写真1 田中家古写真

寄贈をうけて 昨年9月、古写真類100点程が寄贈された。寄贈者の曾祖父である田中晴之助氏は大正初めに汐入地区に用水を引き入れるために、南千住三丁目へ引越してきたという。以来、田中製材所を経営し、隅田川平和会の町会長や石浜神社造営奉賛会の副会長も務めた。今回寄贈された写真は、石浜神社（南千住3・28・58）の祭礼や年中行事、婚礼時のものなど多岐に及び、非常に貴重な資料群である。今回はその写真の中から興味深い1枚を紹介してみよう（写真1）。



写真3 神輿？

確かに建物の内部をよく観察できる。『石浜神社社誌』によれば、拜殿に対しこの位置関係にある建物は神輿庫であった。

守であった。大正9年（一九二〇）に八雲疱瘡神社と改称した。現在の江戸神社である。次に写真1の右上に注目すると、別の建物の軒の一部が写っている。瓦の形から昭和9年（一九三四）に

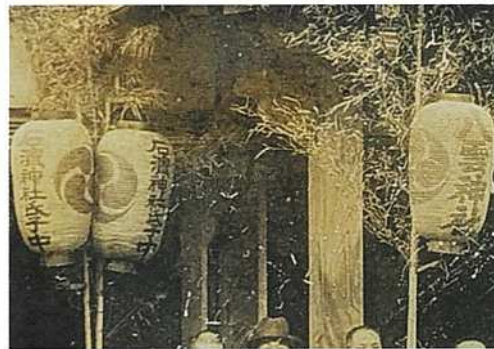


写真2 提灯

浅草橋場町の鎮頭天王社と称し、は、江戸時代、牛頭天王社と称し、

何が写っている？ 建物の前に70人以上の人物が写っている。向かって右側には軍人らしき集団、左側は鳶職のように見える。中央には宮司、その周辺は氏子だろうか。何らかの祭典時に撮られたものだろう。

内部をよく観察できる。『石浜神社社誌』によれば、拜殿に対しこの位置関係にある建物は神輿庫であった。確かに建物の内部をよく観察できる。『石浜神社社誌』によれば、拜殿に対しこの位置関係にある建物は神輿庫であった。

大正14年12月27日付東京朝日新聞には、石浜神社にあった神輿庫が破壊され、「汐入町」（現在の南千住八丁目）、「橋場町」、「地方町」三ヶ町氏子の神輿三台が盗まれ、燃やされたという記事が載っている。この時点で町神輿が三台存在していた。ということは、写真の神輿庫に神社の神輿に加え、三ヶ町の町神輿が入っていたのではないか。

残念ながら、この建物は昭和9年の放火によって燃えてしまった。よって、写真が撮影された期間は、昭和5年から拜殿と神輿庫が焼けた同9年の間であると推測することができる。むしろ、新築記念行事の際に撮られた可能性が高いと言える。四つの間口と町神輿

と、この横長の形をした建物は、何を表しているのだろうか？間口が四つもある。八雲疱瘡神社の神輿だけならば、間口は一つで足りると思われるが…

すると、建物の中に神輿のようなものが見える（写真3）。では、「八雲神社」の提灯は、どのような意味を持つのだろうか？

（大内駿人）

令和7年度 荒川ふるさと文化館の活動と文化財保護活動

令和7年(二〇二五)

- (3月14日) 6月11日 あらかわ伝統工芸ギャラリー展示「はばたけ！若手職人展」技をつなぐ
4月17日 第1回文化財保護推進委員会
4月26日 6月1日 館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」
4月26日 速報展ギャラリートーク
5月1日 7月29日 庁舎エントランスコーナー(鍛金 福土豊二氏/額縁 吉田一司氏)
5月10日 11日 元三島神社祭礼調査
5月17日 「伝統に生きる 衣裳着人形竹中温恵」上映会&ミニトーク
5月24日 25日 石浜神社祭礼調査
5月30日 文化財保護審議会(諮問)
5月31日 速報展ギャラリートーク
5月31日 6月1日 胡録神社祭礼調査
6月3日 7日 8日 素盞雄神社祭礼調査
6月14日 10月8日 あらかわ伝統工芸ギャラリー展示「あらかわの伝統工芸」木版画・江戸文字・諸工芸
6月19日 第2回文化財保護推進委員会
6月28日 月イチギャラリートークあらかわの伝統工芸
7月2日 南千住図書館合同イベント「七夕おはなし会」
7月4日 6日 あらかわの伝統技術展(会場:荒川総合スポーツセンター)
7月26日 夏休み子ども博物館「親子で楽しむ展示解説」
7月29日 10月23日 庁舎エントランスコーナー展(彫金 田村尚子氏)
7月31日 夏休み子ども博物館「リトル学芸員」
8月2日 3日 八幡神社祭礼調査
8月7日 夏休み子ども博物館「俳句を作ろう」(講師:市橋洋子氏・武井澄子氏)

- 8月20日 夏休み子ども博物館「あらかわ職人道場 手描友禅でハンカチに花か金魚を描いてみよう」(手描友禅 笠原以津子氏)
8月22日 29日 30日 10月15日 11月18日 伝統芸能等記録映像「尾久の縁日」撮影
8月23日 夏休み子ども博物館「親子で楽しむ展示解説」
8月23日 24日 諏方神社祭礼調査
8月24日 夏休み子ども博物館「あらかわ職人道場 江戸文字を描いてみよう」(勸亭流・寄席文字・江戸文字 中村泰士氏・銘菊由佳氏)
8月28日 第3回文化財保護推進委員会
8月29日 文化財保護審議会(部会調査)
9月3日 文化財保護審議会(部会調査)
9月24日 文化財保護審議会(部会調査)
9月27日 月イチギャラリートーク
10月2日 11月28日 あらかわ学校職人教室
10月11日 3月11日 あらかわ伝統工芸ギャラリー「あらかわの伝統工芸」木工・金工・諸工芸
10月16日 第4回文化財保護推進委員会
10月17日 11月7日 12月5日(全3回) 古文書講座「古文書に親しむ」(中級編)
10月23日 24日 延命院のシイ(東京都指定天然記念物)剪定
10月23日 2月12日 庁舎エントランスコーナー展(花か) 武関章氏)
10月25日 11月30日 企画展「千住宿」開宿400年」
10月25日 企画展ギャラリートーク
11月1日 企画展関連イベント「あらかわ千住宿散歩」
11月1日 3日 荒川区伝統工芸技術保存会主催「あらかわ座市」
11月10日 文化財保護審議会(部会調査)
11月22日 企画展関連イベント「記念講演会「江戸時代の旅と千住宿」(講師:元交通史学会会長 山本光正氏)
11月29日 企画展ギャラリートーク
11月29日 あらわ座(実演)「職人が語る七宝の魅力」(七宝 島山弘氏)
11月30日 「荒川ふるさと文化館だより」

令和8年(二〇二六)

- 54号刊行
12月21日 3月31日 町屋四丁目実揚遺跡O地点二次整理保存作業
12月24日 文化財保護審議会(答申案)
1月15日 第5回文化財保護推進委員会
1月31日 月イチギャラリートーク
2月5日 文化財保護審議会(答申)
2月8日 荒川区文化遺産地域活性化推進事業運営委員会主催講演会「三河島山車人形の魅力」山車まつりと芸能」(会場:ゆいの森あらかわ) (講師:立教大学文学部兼任講師 滝口正哉氏、入江宣子氏)
2月10日 荒川ふるさと文化館収蔵品データベース公開
2月12日 3月26日 庁舎エントランスコーナー(桐たんす 村井正孝氏/桐たんす仕上げ 村井泰雄氏)
2月13日 令和7年度荒川区登録指定文化財告示(登録) 記念物(史跡) 八幡堀跡【指定】有形文化財(建造物) 木造七面明神立像宮殿 <延命院> 有形文化財(彫刻) 木造七面明神立像、無形文化財(工芸技術) 勸亭流・寄席文字・江戸文字(中村泰士氏)
2月28日 月イチギャラリートーク「双眼鏡でのぞいてみよう」
3月1日 22日 東京都、東京都教育委員会、公益財団法人東京都歴史文化財団、東京都民俗芸能大会実行委員会 共催東京都民俗芸能大会関連ワークショップ「寿獅子舞体験」(江戸の里神楽 松本社中)
3月7日 奥の細道矢立初めの地 子ども俳句相撲大会千秋楽 ※入賞作品等配信予定
3月14日 5月31日 あらかわ伝統工芸ギャラリー展示「はばたけ！若手職人展」技をつなぐ」
3月14日 文化財保護推進員研修(西尾久方面文化財巡見)
3月27日 伝統工芸技術記録映画「伝統に生きる 指物 渡辺光」完成

表彰
3月28日 あらわ座(実演・解説・体験)「職人が語る木版画摺の魅力」(木版画摺 小川信人氏)
月イチギャラリートーク「復元家屋で文化財トーク」
3月29日 「寿獅子舞体験成果発表」
3月29日 東京都・東京都教育委員会・公益財団法人東京都歴史文化財団・東京都民俗芸能大会実行委員会主催、荒川区荒川教育委員会共催、東京都民俗芸能大会日 ARAKAWA(会場:サンパール荒川)
3月31日 史跡説明板設置【新規】 水神祠/公春院の松【修繕】
3月31日 「荒川ふるさと文化館だより」55号刊行
令和7年度春の褒章 黄綬褒章 受賞 七宝 島山弘氏(荒川区登録無形文化財保持者)
令和7年度地域文化功労者表彰(文化庁) 受賞 荒川区伝統工芸技術保存会会長 中村泰士氏(荒川区指定無形文化財保持者)
第24回関東伝統工芸士会作品コンクール 関東経済産業局長賞 受賞 指物 根本 徳氏(荒川区登録無形文化財保持者)
令和7年度東京都優秀技能者(東京マイスター) 知事賞 受賞 衣裳着人形竹中温恵氏(荒川区指定無形文化財保持者)

訃報
荒川区指定無形文化財保持者(工芸技術・鍛金) 福土豊二氏は去る令和8年2月23日に逝去されました(享年82歳)。
荒川区登録無形文化財保持者(工芸技術・金箔押し) 竹澤光雄氏は去る令和8年2月25日に逝去されました(享年85歳)。
謹んでご冥福をお祈りいたします。